

バリアフリー法に規定されているスパイラルアップの観点から、視覚障害者・聴覚障害者が外出先で移動するにあたって望ましい設備のあり方を検討

調査研究の実施

当事者からの意見聴取

平成22年度調査研究

障害当事者が外出先で移動する際の課題・ニーズを抽出

○視覚障害者

エスカレーター、エレベーター使用の際の音声案内装置

- ・ エスカレーターへの誘導案内放送や出入口が2方向にあるエレベーターの案内放送について、ガイドラインでは詳細に規定されていない。

○聴覚障害者

災害等緊急時や鉄道におけるダイヤ乱れの際の係員による案内

- ・ 放送では聴覚障害者が単独で行動している時には状況が理解できず、孤立することがある。

平成23年度調査研究

抽出された課題について、実証実験を実施。

調査研究

平成22・23年度調査研究で得られた方向性

○エスカレータへの「誘導」と「誤進入防止」の機能を満たす音声案内装置スピーカーの取付位置

- I 乗り口手前の床に近い位置から主要動線方向に向けて一般スピーカーを設置
(逆方向のエスカレーターから離れた位置に設置)
- II 乗り口手前に設置が困難な場合は以下のいずれかの方法 (いずれも、逆方向のエスカレーターから離れた位置に設置し、別途誤進入防止対策を講じる)
 - ① 乗り口の手前の床に近い位置から主要動線方向に向けて指向性スピーカーを設置
 - ② 乗り口の上部(天井等)から主要動線方向に向けて一般スピーカー又は指向性スピーカーを設置
 - ③ 乗り口の上部(天井等)から真下に向けて一般スピーカーを設置
- III 乗り口の上部(天井等)から真下方向に向けた指向性スピーカーの設置やエスカレータ内側の側面から真横方向に向けたスピーカー(エスカレーター内蔵型を含む)の設置は避ける

○2方向あるエレベーターにおける開扉方向の案内放送

・表現方法

- I 「乗り口と反対側」や「乗り口から見て右側」等、乗った位置を基にした具体的な表現、「こちら側」などの音声案内装置の位置を基にした抽象的な表現を避ける
- II 表現は誰でも分かりやすい平易なもの

・案内放送をするタイミング

- I できるだけ乗った時と降りる時の両方に案内
- II 両方の案内が難しい場合は、乗った時に案内

当事者からの意見

○災害等緊急時における文字情報装置の表示方法

・文章の表現

- I どのように行動したらよいか分かる情報
- II 体言止めや命令形などの簡潔な文章
- III 漢字の多用や難しい漢字を避け言い回しを平易にするなど誰でも分かりやすい表現

・スクロールの速さ

- A案 通常よりも「速い」スピード(5.2文字／秒程度)
(ただし、説明が長く、読み取りにくいなどの場合は、この限りではない)
- B案 原則として「中位」(2.6文字／秒程度)

○運行異常時における文字情報の表示方法

・文章の表現

- I 発生原因や振替輸送などの代替手段がわかるような情報
- II 体言止めや命令形の簡潔な文章
- III 漢字の多用や難しい漢字を避け言い回しを平易にするなど誰でも分かりやすい表現

・スクロールの速さ

- A案 原則として「中位」のスピード(2.6文字／秒程度)
- B案 原則として「遅い」スピード(1.7文字／秒程度)

1ページから

当事者からの意見

当事者に配慮した設備の望ましいあり方を、現在見直し作業を行っているガイドラインに反映

平成24年5月下旬 第2回検討小委員会 開催

(この間適宜WG開催)

平成24年8月下旬 第2回検討委員会 開催

平成24年中の見直しを予定

平成18年12月に施行されたバリアフリー法においては、高齢者、身体障害者のみならず、知的障害、発達障害、精神障害のある方も含む、すべての障害者が対象となることが明確化



平成19年度より、知的障害、発達障害、精神障害のある方が安心して移動や施設利用ができる方を当事者団体、学識者、関係事業者等からなる委員会で検討



平成21年に、公共交通機関、商業施設、公共施設等の職員が、知的障害、発達障害、精神障害のある利用者に対して適切な対応をするためのポイントを記載した「知的障害、発達障害、精神障害のある方とのコミュニケーションハンドブック」及び、知的障害、発達障害、精神障害のある方に有効な施設整備のポイントや優良事例をまとめた「知的障害、発達障害、精神障害のある人のための施設整備のポイント集」を作成し、ハード・ソフトの両面から知的障害、発達障害、精神障害のある方に配慮したバリアフリー化施策を推進している。

周知先

作成時に関係事業者、障害者団体、地方公共団体等に広く周知

今後の方向性

今後は、地方局等のバリアフリープロモート活動や、バリアフリー教室の際に活用する等、更なる周知活動に努めるとともに、必要に応じて内容についてスパイラルアップを行っていくこととする。